

教科目名 卒業研究 (Graduation Research)

学科名・学年 : 土木工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 科目)
 単位数など : 必修 10単位 (前期4コマ, 後期6コマ, 学習保証時間195時間)
 担当教員 : 都市システム工学科主任, 卒業研究担当教員

授業の概要			
高専で修得した学習の集大成として卒業研究を実施する。以下に示す都市システム工学科教員の研究テーマ(変更することもある)から希望する教員の研究室を選択する。その際、各教員の研究室に所属できる学生は全学生数を全教員数で割ったおおよその人数とするので、全員が希望する教員につけるとは限らない。 島田 晋: ダム湖周辺の環境整備(稲葉ダム・大分川ダム), 流域市町村の連携による地域活性化(大野川ほか) 園田 敏矢: 土木構造物の振動特性について, TLD(同調液体ダンパー)の制震効果について 亀野 辰三: 別大国道の歩道景観の評価に関する研究, 道路里親制度の評価と方向性 佐野 博昭: 廃石膏ボード粉の地盤改良材としての適用性に関する研究, 温泉余土の工学的特性に関する研究 一宮 一夫: 寒中コンクリートの強度回復性ならびに耐久性への影響, 吹付け工法用ポリマーセメントモルタルの流動性評価 東野 誠: 河川でのアユの生息環境と生態系に関する調査, 都市域でのヒートアイランド現象が環境に及ぼす影響 高見 徹: バイオアッセイによる毒性評価に関する研究, 水質変換装置に関する基礎的研究 田中 孝典: 歩行環境に配慮した舗装についての考察, 歩行者空間の快適性に関する考察 前 稔文: プログラミングによるコンピュータ造形, 画像解析を用いた色要素と景観の関係について 名木野晴暢: 数値解析法の開発, 平板, シェル, 円筒体の構造解析(主として動的問題)			
達成目標と評価方法		大分高専目標(C1)(D1), JABEE目標(d2b)(d2c)(e)(f)(g)(h)	
(1) 研究テーマに対して, 自主的かつ計画的に実験等を遂行することができる。(中間報告会・試問) (2) 専門工学の基礎知識を統合して創造的に問題を解決することができる。(中間報告書・卒業研究報告書・卒業研究概要) (3) 自分の研究内容について, プレゼンテーションとディスカッションをすることができる。(中間報告会・試問)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
4月	1. ガイダンス, テーマ説明 2. 研究室配属先決定 3. 研究課題の決定 4. 研究開始	各指導教員の研究室への配属は, 学生の希望等によって決定する。 研究課題と研究計画については, 指導教員と相談の上で決定する。学生自身の主体的な取組みが重要である。	【理解の度合い】
12月	5. 中間報告書の提出・中間報告会	中間報告書は1ページとする。	【評価】 点 【理解の度合い】
2月	6. 卒業研究報告書・卒業研究概要の提出 7. 試問	卒業研究報告書は8ページ以上16ページ以下とする。 卒業研究概要は2ページとする。	【評価】 点 【評価】 点
履修上の注意		自発的に各研究課題に取組み, 実験・解析・計画等の内容を理解し, 積極的に他の研究室のメンバーとも協力して, 卒業研究を進める。調査のため校外に出かけることもあるが, 事故等に対して十分に注意を払う。卒業研究をまとめるだけでなく, 土木学会等の学外での発表ができるように期待する。時間割にこだわらず, 放課後・休日・長期休暇中にも研究に従事する。	【総合達成度】
教科書			
参考図書			
関連科目		地域日本文学, 特別研究(専攻科), 実験実習, プロジェクト実験(専攻科)	
総合評価		(1) 達成目標の(1)~(3)について 中間報告書・中間報告会, 卒業研究報告書, 卒業研究概要・試問で評価する。 (2) , については, 複数の都市システム工学科教員で審査する。については, 都市システム工学科教員全員で審査する。~ については, 各審査員は100点満点で評価点をつける。~ の評価点が60点未満(不可)の場合, 学生が期日までに不可と判定された点を修正することで60点とすることができる。 (3) 総合評価 = $0.2 \times \text{ } + 0.5 \times \text{ } + 0.3 \times \text{ }$ (4) 総合評価が60点以上を合格とする。	【総合評価】 点

